



## 明日の昨日～風紋の物語～

BARBINI DAVIDE

アクリル絵具、キャンバス

私が生まれたヨーロッパでは、静物画は元来「メメント・モリ」として宗教的意味合いが強く、死を意識させる役割を果たしてきた。しかし、今回は宗教的な意味ではなく、遠い未来を想像し、現代の生活がどのように後世に残るのかを問い、視覚化した。

この作品で私が大切にすることは、時間と記憶である。

一つの作品の中に過去・現在・未来を同時に詰め込んだ。

日常の痕跡（プラスチックボトル、靴跡、砂に描かれたハート型など普段見過ごしてしまうような小さなもの）や、自然物・自然現象（地層、風紋、流木、貝殻、カニなど）を描くことを通して、「未来から見た私たちの世界」を表現した。

時間の流れの中で私たちの存在がどれほど小さくても、私たちの存在そのものが持つ神秘的な価値と自然の無情さは何らかの形で残るであろう。

数百万年後、別の知的生命体が私たちの時代の化石を見た時、どのように感じ、どんな物語を想像するのだろうか。